

水源地域活性化調査業務実施報告書

平成 22 年 3 月 23 日

平 取 町

目 次

1. 水源地域の現状及び本調査の目的	1
2. 調査対象地域	2
3. 業務内容	3
4. 業務全体の方針及び手法	4
5. 調査報告	
●廃校利用を柱とした水源地域活性化活動	
「とよぬかをナマら元気にするべや！若者ミーティング」の開催	6
「インタープリター養成講座インとよぬかの開催」	8
「廃校を考えるフォーラム i n とよぬか」	9
「住宅つき滞在型農園とよぬかの里の拡充」	12
●豊糠地区の特産品開発、地域イメージキャラクターの検討	
「とよぬかブランド特産品の発掘・販売展開調査研究」	15
「とよぬかブランドキャラクターの検討」	23
●ホームページの開設、検討	47
6. 水源地域活性化活動の実施	50
7. 事業のまとめと評価	55

「平取町水源地域 とよぬかをナマら元気にするべや！」事業

受託者) 住 所 北海道沙流郡平取町本町28番地

電話番号 01457-2-2222

団体名 北海道平取町

代表者 町長 川上 満

担当者) 氏 名 三浦 明徳

電話番号 01457-2-2222

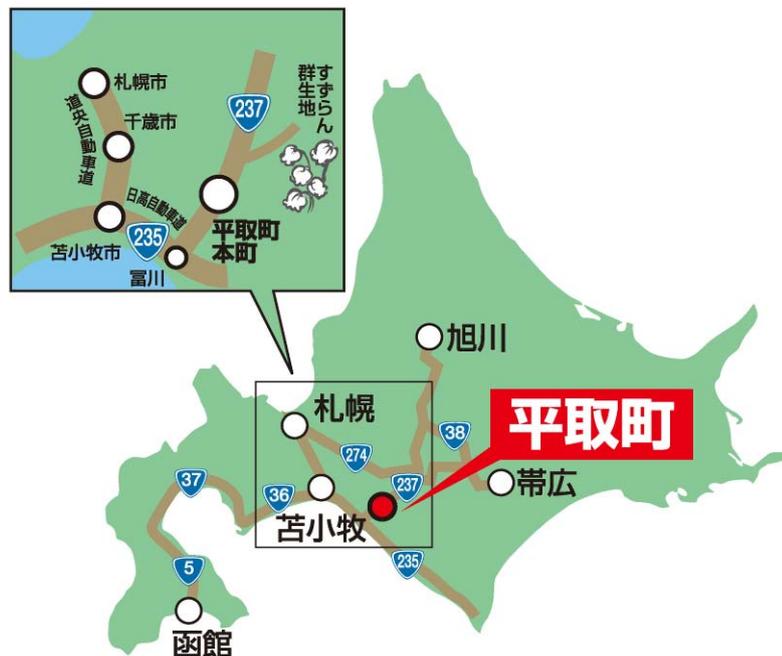
F A X 01457-2-2277

e-mail kikaku2007@town.biratori.hokkaido.jp

1. 水源地域の現状及び本調査の目的

平取町は豊かな自然に恵まれ、北海道では比較的温暖で過ごしやすい地域である。基幹産業である農業、特に施設野菜のトマトの生産は年販売額30億円を超えるに至っている。しかし、人口は減少を続けさらに過疎化は進行している状況である。

平取ダムの建設予定となっている水源地域である豊糠(とよぬか)地区においても過疎化が進み、平成20年3月には豊糠小中学校が61年間の長い歴史とともに閉校し、このままでは地域が崩壊するのではないかという危機感を地域住民は抱い



ている。

そこで、豊糠地区の活性化を考えると、平取町全体の地域活性化につながるという認識のもとに、豊糠地区の効果的な活性化の取り組みを調査し、実施検討することを目的としたものである。



旧豊糠小中学校

2. 調査対象地域

北海道沙流郡平取町一円を調査対象とし実施した。



平取町と調査活動の中心となる豊糠地区

3. 業務の内容

北海道沙流郡平取町の水源地域である豊糠地区において、地元の関係者やダム管理所の連携のもと、次の内容を含む水源地域活性化活動を企画・立案した。

- ① 廃校利用を柱とした水源地域活性化活動
- ② 豊糠地区の特産品開発と地域のイメージキャラクターの検討
- ③ ホームページの開設と活用

以上の内容を含めて地域活性化業務を調査し、全体協議しながら協議会内で進めていくものとする。



水源地域振興協議会内での調査業務の説明と協議

4. 業務全体の方針及び手法

平取ダム水源地域振興協議会は、平成20年10月に地域住民と地元有志が地域活性化を図るべく組織され、アドバイザー派遣のもと協議を重ねてきた経緯がある。

調査業務として、協議会員および事務局により特別部会を設置し、事業を実施することにした。

① 調査業務遂行員

本調査業務は、平取ダム水源地域振興協議会のメンバーにて実施することとした。

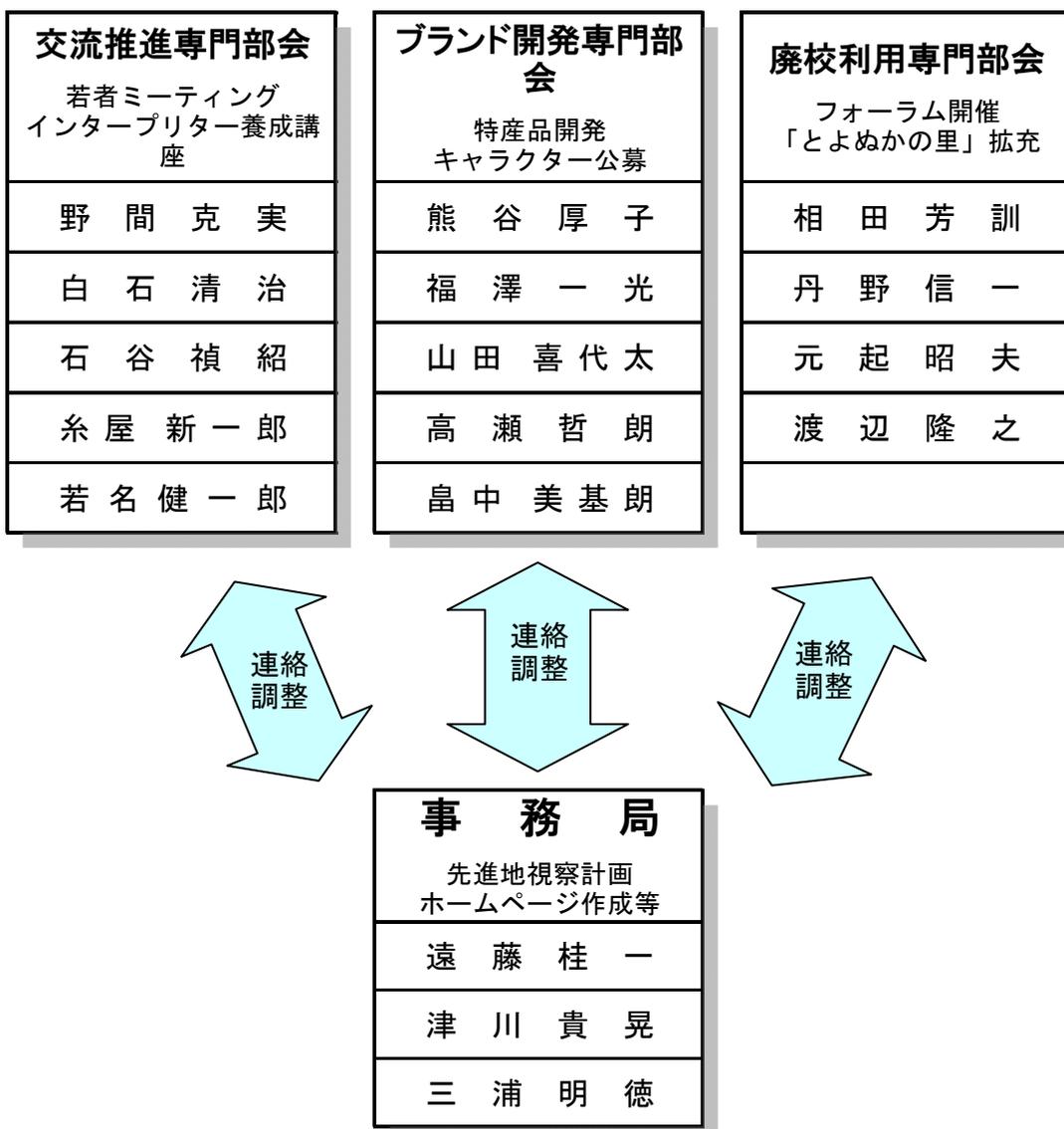
水源地域振興推進協議会委員名簿

No.	氏名	所属	備考
1	相田 芳訓	豊糠自治会長	会長
2	高瀬 哲朗	芽生自治会長	
3	丹野 信一	貫気別自治会長	
4	福澤 一光	自治振興会長（振内自治会長）	
5	山田喜代太	平取町商工会長・観光協会副会長	
6	糸屋新一郎	平取町農協トマト・きゅうり部会長	
7	白石 清治	旭自治会長	
8	元起 昭夫	平取町山岳会長	
9	渡辺 隆之	NPO法人振内親子留学推進協議会長	副会長
10	熊谷 厚子	バリアフリーのくまさん荘経営	
11	野間 克実	北・倶楽部運営責任者	
12	石谷 禎紹	豊糠自治会	
13	畠中美基朗	豊糠自治会	
14	若名健一郎	NPO法人ほかげ	
15	遠藤 桂一	平取町町づくり振興課長	事務局長
16	津川 貴晃	平取町町づくり振興課主幹	事務局
17	三浦 明德	平取町町づくり振興課企画係長	事務局

② 特別部会の設置

部会の設置にあたり、内部協議で交流推進部会・ブランド開発専門部会・廃校利用専門部会として3部会を設置し、それぞれの部会で議論等を重ねて全体協議会において進捗状況と実施報告をすることとした。

水源地域活性化調査業務専門部会



- ① 各専門部会にて部長を中心に業務分担し、企画立案・試行を行う。
- ② 全体にて事業実施し、評価検証を行う。
- ③ 評価後・実施報告書を作成する。

5. 調査報告

●「廃校利用を柱とした水源地域活性化活動」

廃校利用を検討するにあたり、豊糠地域を知ってもらう活動が必要と考えた。これにあたり、フォーラムやミーティングの開催、ネイチャーツーリズムに対応するインタープリター養成講座を企画した。

企画「とよぬかをナマラ元気にするべや！若者ミーティング」の開催

廃校利用部会で検討してきた豊糠の活性化を、町外の人や若者の考えなどを参考にすることでより面白いものがでてくるのではないかと考え、北海道内の学生を中心に募集して地域に滞在させ、地元住民との交流の場などを設定し、「よそ者」視点による豊糠地区の活性化を考えてもらいながら、関わりをもって豊糠を知ってもらう「若者ミーティング」を北海道内の学生を対象として実施した。

具体的な進め方として、9月に専門部会6名の参加により事業の進め方を協議し、地域スタッフへの事業説明会（参加者9名）の実施。10月には、THE セツルメント、北海道大学の学生を中心としたSEND（北海道社会起業家支援ネットワーク）、祭人（大学サークル）を若者ミーティングスタッフとして打診した。

- 9月25日 専門部会（6名）
- 9月28日 事業説明会（9名）
- 10月 8日 団体訪問（THEセツルメント）
- 10月 9日 団体訪問（北海道社会起業家支援ネットワーク）
- 10月10日 団体訪問（祭人）
- 11月2～3日 視察受入（北海道社会起業家支援ネットワーク5名）
- 12月 8日 視察受入（祭人他6名）などによる「」への参加。
- 12月21～22日 田舎づくり実践塾への参加
- 2月13～14日 よさこいイベントの開催援助

打診後、北海道社会起業家支援ネットワークが現地視察に来町し、地域住民を含めた交流会を実施。また、地域をよく知ってもらおうと豊糠小中学校・平取ダム建設現場・すずらん群生地・町営牧野・振内山の駅など視察も実施した。その後、札幌での討論交流会を実施したところ、ファームステイ計画へと進展することとなった。



集まった都市部の若者たちと記念撮影

さらに、関連事業として北海道工業大学のゼミ生が卒業論文取材のために視察来町し、結城登美雄氏講演やワークショップなどによる「田舎づくり実践塾」への参加。また、これらを起爆剤としてプログラム準備段階に接触していた学生サークルとのコンタクトにより全国の大学生300人による「よさこいイベント」が開催され、若者が平取町を知る大きなきっかけとなり都市と田舎の交流として非常に好ましい関係を築くことができた。



若者たちとの交流を交えながら討論

企画「インタープリター養成講座インとよぬかの開催」

廃校利用の取り組みの一つとして、大自然を利用した「ネイチャーツーリズム」に対応できるインタープリターの養成講座を開催し、全国から受講者を募集しながら町民にも機会提供することにより人材育成を図ろうと企画した。

実施にあたり、自然体験関連 NPO 法人や、体験型観光会社、環境系 NGO と検討会を実施した。(参加機関：ねおす、ezorock、北海道宝島旅行社)

検討会の中で挙げられた事項としては、地元を今以上に熟知して地域環境の活用方法を学習しないと、講座の開催だけで終わる消化事業になること。道外からの参加者は望めないという点（平取町で養成講座を受けるメリットが無い）、平取町らしさのある講座の具体案が無いという点、将来的な地域づくりの中での本事業の位置づけが明確でないという点、どのような結果を出し、それはどのようにして継続していくのかが明確でないという点について指摘を受けることとなる。これにより、スタートからインタープリター養成講座を開催するには今後うまく軌道に乗せるのにも無理があると判断した。

講座開催には至らなかったが、長期的視野のもとに地元の資源を掘り下げて学習する必要があると確認し、「※地元学」の教授とコンタクトを取って開催準備を進めているところである。

※地元学とは

地元学とは、公害問題で苦しんだ水俣が、住民協働で環境に特化して行動し元気を取り戻した中から生まれ、次の事を基本としている。

- ・ 地元に住んでいる人が主体的に行うこと
- ・ 学問(民俗学等)や物知り学ではなく、調べたことを町や村の元気づくりに役立てていき、役立てるために調べていくこと
- ・ 地域住民だけでなく、地域外の人、いわゆる「風の人」の視点や助言を得ながら、地元を調べていくこと

企画「廃校利用を考えるフォーラム in とよぬか」

少子化・過疎化の問題は全国的な問題であり、それを発端として多くの学校が廃校となっている。豊糠の小中学校も例外ではなく、平成20年3月に幕を閉じた。しかし、地域の要で歴史ある学校と校舎は、まだまだ活用策を考える必要がある。そこで、様々な角度から廃校の利用方法を検討し、有識者などの意見を聞きながら地域と活用策について考えようとフォーラムを開催した。

日 程 平成22年3月20日～3月21日

場 所 旧豊糠小中学校

参加者 町内外20名

町内外から、有識者や先進事例となる講話を依頼し、2日間の日程で実施した。前段として平取町を知ってもらうべく町内の各施設などを視察し、フォーラム開催の場所である旧豊糠小中学校へ移動した。



現在も管理されている旧豊糠小中学校校舎内でのグループワーク

講話として、招聘した講師より北海道新冠町の先進事例が紹介された。この事例は、廃校となった校舎をインターネットオークションを利用して民間へ売却するというものであり、地域の望むものであるのか、廃校活用策として理解が得られるものかは不明ではあるが、売却までの民間金融機関を利用した調査方法や、ランニングコストをかけずに長期的な視点で活用できる方法をとという手法の1つとしては多いに参考になったと言える。



廃校後は地域での交流に利用されている

フ
オー
ラムの中で、旧豊糠小中学校の活用策だけではなく、先行事業として実施していた旧教員住宅「とよぬかの里」の視察も実施。宿泊施設として学校校舎に過大投資をして改修するよりも、ランニングコスト削減を考慮してこの住宅を活用したほうが有効ではとの案もでるなどの議論もされた。

また、旧教員住宅「とよぬかの里」は備品等を整備して見栄えを良くし、利用価格を下げたため、参加者の関心を寄せていた。



短期滞在型農園「とよぬかの里」住宅内部を視察

また、グループワークを実施することで様々なアイデアの提案があった。地域とは違った視点による意見は刺激になり、これまでの検討で硬直化していた方向性に新しい風を呼ぶものであったが、改めて「地域づくり」は、地域や行政、有識者など全てが連携していくことが不可欠であり、解決していく課題の一つであると共通認識することができた。また、参加者との討議の中で、都会視点と地域の視点には違いがあるが廃校の活用策を地域とは別の視点から関わってみたい、そんな声も少なくはないということも確認できた。

フォーラム全体を通して、廃校活用にあたり豊糠地区は幌尻岳への登山客約3,000人の登山口であり、このような「資源」を活用しない手はなく、今後は登山客をターゲットとした拠点宿泊施設の実施に向けて、山岳会・振内交通など、関係機関と調整を進めて検討することで終会した。

企画「住宅つき滞在型農園とよぬかの里の拡充」

平成21年度より実施した住宅つき滞在型農園「とよぬかの里」は、1シーズン（4月～11月まで）100坪の農園とともに住宅（旧教員住宅）が年間35万円で利用できると実施した。しかし、利用は1件にとどまった為、更なるPRや価格設定の見直しが必要と考えられた。また、昨年の利用者に、意見や感想などを聴取した。



「とよぬかの里」住宅全景

利用者の感想としては、

1. この不況下に35万は高い価格設定であり、北海道外からの利用では更に交通経費などがかかりすぎることに。
2. 住宅内に備品が少なく、持ち込む家財が多いこと。
3. 札幌の知人から教えてもらうことで利用したが、制度が一般向けとして周知不足であること。

などが指摘され、これらを踏まえて、12月の協議会で実施方法を再検討した。価格設定を10万円下げて25万円としてチラシを作成し関係機関へ配布、北海道移住情報誌への掲載などPR方法を強化した。

2月中旬までを募集期間とした結果、問い合わせは3件あったものの申し込みまでには至らず更に実施方法を再検討することとなる。

3月11日の協議会内で実施と経過報告をしたところ、備品整備をして見栄え良く注目されるような試みを実施することとなる。そして、限定戸数としてモニター価格を設定し、住宅内の備品（絨毯・テーブル・食器戸棚・食器・掃除用具など）を整備し来町者向けのPRに努めることとなった。

平取町

ゆったりのんびりを体感!
滞在型農園でスローライフ



100坪の畑付き住宅を1シーズンレンタルできる滞在型農園「とよぬかの里」で安心食材を自分の手で作ってみませんか? 不在時も地元の人が手伝ってくれるので、期間中であれば好きな時間に来て、自由に農業体験ができます。

北海道の先住民であるアイヌの文化の里である平取町は、伝統ある地域行事や四季折々のイベントや岩風呂の温泉施設、日本一のすずらん群生地や日高山脈最高峰の機岳岳など見どころや名物が盛りだくさんの町です。



「とよぬかの里」でのんびりとスローライフを



日本一の面積を誇るすずらん群生地

TOWN INFO 平取町水源地域振興協議会事務局 (平取町役場町づくり振興課企画係)

☎01457・2・2222 ☎01457・2・2277

<http://inaka-mono.com/move2biratori/toyonukanosato/>

北海道生活秋号掲載広告

平取町

憧れの北海道生活を気軽に体験!
「とよぬかの里」4戸募集中!



北海道内でも冬は暖かく夏は涼しい平取町で、憧れの別荘を1シーズンレンタルすることができます。住宅には、生活家電と100坪の広大な農園付き。初めてでも指導員のサポートを受けながら、自分だけの野菜や花畑を作ることができます。

また、いつでも好きなときに滞在ができ、不在時にはサポーターが農園を管理。今年の夏は平取町の滞在型農園「とよぬかの里」でゆったり過ごしてみませんか。

平取町は、大都市や空港にも近く、美食あり、温泉あり、春夏秋冬季節ごとのイベントも目白押しで魅力がたくさん。生活家電が完備された3LDKの住宅と100坪の農園セットで、4月から11月までの期間を25万円で自由に使えます。家族利用のほか、合宿・グループでの利用相談にも対応。4戸限定ですので、お気軽にお問い合わせください。



居心地にこだわった住居でスローライフ



ヨーロッパを思わせるような「とよぬかの里」の自然は、人・食・風土を豊かに育てる

TOWN INFO 平取町水源地域振興協議会事務局 (平取町役場町づくり振興課企画係)

☎01457・2・2222 ☎01457・2・2277 <http://inaka-mono.com/move2biratori/toyonukanosato/>

北海道生活1-2月号掲載広告

モニター価格は2戸限定とし、1シーズン12万円で利用可能（農園を利用せず、住宅だけの使用であれば8万円）とした。これにより地元新聞の記事として掲載されることとなり、改定後間もなく数件の問い合わせと、仮申し込みを受けるに至る。



備品を整備した住宅内部

北海道でゆったりと自家栽培

北海道平取町、農園つき短期滞在住宅

「とよぬかの里」

25万円!



住宅と農園100坪を1シーズンレンタルで



穏やかな気候の中でゆったりとこだわりの食材を栽培

北海道の雄大な大地で育てた作物は、味が濃厚で栄養価も高いと評判されています。

北海道の中でも、気候が温暖な平取町で自由に野菜や花を栽培する広大な農園を家つきでレンタルすることができます。

初めての方でもサポートを受けながら栽培を楽しむことができます。良材本来の味を生かした自家栽培を楽しんでみませんか。

限定募集 4戸限定 1シーズン25万円

申込期間 2010年2月22日(水)まで
受付時間 9:30～17:00
 北海道沙流郡平取町本町2丁目番地
 平取町交番 町づくり振興課企画課
 (平取町水源地域振興協議会事務局)
 TEL: 01457-2-2222
http://nakuramu-cs.jp/visitor/kyouen.html

提供：平取町水源地域振興協議会
 後援：平取町



平取町「とよぬかの里」

2010年利用募集用に作成したチラシ

今後の方向性としては、より利用しやすい整備（トイレの水洗化やボイラー・シャワーの整備）をすることで、長期滞在や夏休み期間の短期家族利用プランの設定。

また、受付窓口や、運営を地元など専門に対応してもらうなど、事業として安定した軌道に乗せることが課題となる。

●豊糠地区の特産品開発、地域イメージキャラクターの検討

①「とよぬかブランド特産品の発掘・販売展開調査研究」

豊糠地区は生乳、アスパラ、スイートコーンなどの農産物や山菜、鹿肉や熊肉など、特産品を発掘するための素材が豊富に存在している。協議会におけるブランド開発専門部会では、そういった素材を利用した「とよぬかブランド」の特産品を開発し、流通や販売手法なども研究することとした。また、誰からも愛される地域のシンボルとなるキャラクターを公募するなどとして検討した。

- 11月 専門部会（4名）特産品、素材の検討
- 12月 キャラクター公募(平成21年12月15日～平成22年2月10日)
- 1月 特産品の試作（鹿肉ジャーキー）
試食配布（長崎・博多・広島・京都・大阪・福井・横浜・東京・仙台）
- 2月 特産品の試作（地元女性部）
- 3月 試作品のアドバイスを受ける（札幌）
協議会での試食会（12品の試作品）
キャラクター選考（応募29件）

11月に専門部会を開催し、地元産物を活用した特産品のリストアップと試作品について検討した。その後の進め方として、地域住民の協力のもと、必要な物品の調達と、精肉販売会社（ノーユー）の担当者に食材調達と食材管理の方法についてもアドバイスを受けた。



水源地域協議会にて進捗報告

1月には、生ラム肉、鹿肉、香辛料、調味料を調達し、試作として鹿ジャーキー（味噌・カレー味）を作成し、全国（長崎・博多・広島・京都・大阪・福井・横浜・東京・仙台）で試食を配布し、意見をもらったところ好反応を得る。

2月には、地元女性部にレシピに基づいた試作品の作成を依頼。

3月上旬にプロのアドバイザーに意見を拝聴すべく、札幌市にあるフランス料理「ラ・サンテ」を訪問、オーナーシェフに鹿ハンバーグとコーンスープについて渡して、商品化に向けたアドバイスを受ける。同日、コンタクトをとっていた札幌市の人気焼き鳥店を訪問し、経営者に鹿スモーク・鹿ジャーキーのアドバイスを受けた。いずれも家庭料理の域を出ていないという厳しい指摘を受けることとなったが、改善アドバイスにより再改良することとなった。アドバイザーの意見を元に再度、練り直して協議会内で試食会を実施し評価した。



特産試作品を試食、評価を実施

実施結果として12品の試作品が完成し、調味を更に改良し素材の加工方法（歯応えが良く柔らかくなど）により商品化は可能という意見とともに方向性が確認できた。今後は、生産加工先の検討や流通販売などの市場・法的な課題をクリアしていくことが課題となる。

特産品試作メニュー12品（地域の食材を活用した特産品ブランド）



鹿ジャーキー味噌味



鹿ジャーキーカレー味



スモーク鹿肉



鹿ロース焼肉味噌味



鹿烧肉韩国味

鹿烧肉韩国味



鹿煮物韩国味

鹿煮物韩国味



ラム鹿ハンバーグ



ラム鹿キーマカレー



豊糠産アスパラ酢漬け



豊糠産コーンスープ



豊糠産いも団子



豊糠産いも春巻き

②「とよぬかブランドキャラクターの検討」

地域のシンボルとなるキャラクターを作り、「とよぬか」を更にPRしていこうと、部会内で手法検討した。

専門業者に依頼するよりも、全国から広く公募することで違った視点による独創的なアイデアが寄せられ、コスト的にもメリットがあると一致し、全国的に公募。

- 公募期間 平成21年12月15日～平成22年2月10日
- 募集形態 メール応募、封書による応募、窓口での応募
- 配布先 平取高等学校・札幌市各デザイン専門学校・各大学デザイン学科など

公募方法として、募集チラシを作成してデザイン関係の専門学校などを中心に掲示依頼したり、ホームページ上で募集や公募ガイドに掲載することとした。

最終的には、全国各地から封書やメールにより29名の応募が寄せられた。各応募キャラクターを協議会にて各自事前採点をしてから集計、最高得点者を最優秀採用とすることで優秀賞を決めることとした。

【応募者の住所】

北海道	平取町・新冠町・札幌市・江別市
青森県	弘前市
新潟県	燕市・上越市
千葉県	市川市
東京都	江戸川区・稲城市
神奈川県	横浜市・川崎市・茅ヶ崎市
京都府	京都市
大阪府	大阪市
兵庫県	宍粟市・神戸市
広島県	廿日市
香川県	東かがわ市
福岡県	北九州市・福岡市

採用 JCB商品券3万円！！

平取町とよぬか イメージキャラクター

募集中！



募集内容

平取町水源地域振興協議会は地域の振興と活性化を図るため平成20年10月に発足されました。

町内の豊糠（とよぬか）地区は学校も閉校となり、校舎や教員住宅の有効利用を含めた多角的な取り組みをしているところです。

また、地産物を使った商品・食品開発研究も進められています。

そこで、豊糠地域をより多くの人に知って頂き、いっそう親しまれるようにキャラクターを募集することに致しました。

- ・平取町の豊糠地区は、北海道沙流郡平取町の奥まった所に位置しています。
- ・日本百名山のひとつ幌尻岳の登山口に一番近い地域です。
- ・日本一の規模を誇る野生のすずらの群生地が一番近い集落です。
- ・四方を山に囲まれた手付かずの自然に溢れた閑静な場所です。
- ・春や秋の山菜、ホワイトアスパラガス、スイートコーンなどが採れます。
- ・鹿・熊・きつね・狸・ウサギなど野生動物の宝庫でもあります。
- ・はぶさを含め多くの鳥類が生息しています。

以上の要素をイメージしながら、独創性に溢れた作品をお寄せ下さい。
キャラクターと、出来ればキャッチフレーズもお考え下さい。

応募方法

デジタルデータ（BMP、GIF、JPG、PNG、TIFF形式）※デジタルデータの場合はサイズ不問
イラストは、はがきからA4サイズ相当までを、氏名・住所・電話番号等連絡先を記名の上、
平成22年2月10日までにご応募下さい。

応募された中から協議会内で選考し、採用者にはご通知いたします。

採用特典：優秀採用はJCB商品券3万円分、入賞は平取町豊糠にある「バリアフリーのくまさん荘」1泊をプレゼントいたします。

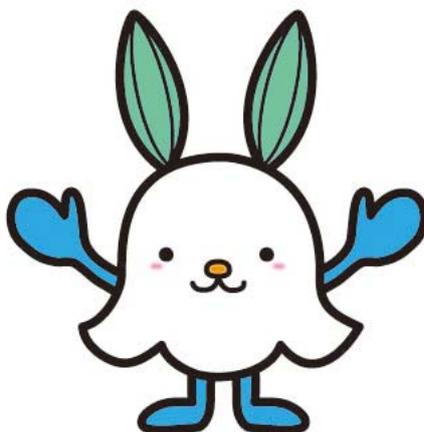
なお、応募作品は返却しません。優秀採用・入賞採用の著作権、著作権、商品化の際の2次使用などの権利は、すべて平取ダム水源地域振興協議会に帰属します

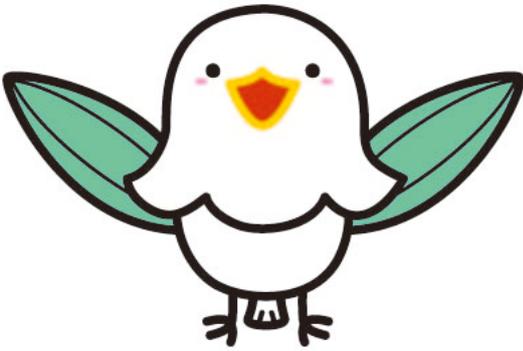
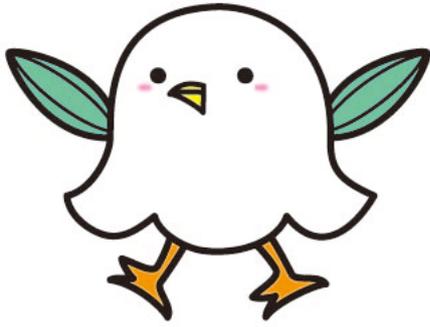
応募先

平取町水源地域振興協議会（事務局：平取町役場内）
〒055-0192 北海道沙流郡平取町本町2 8番地（平取町役場内）
メール：kikaku.biratori@gmail.com（送信容量2.5MB以内）
お問い合わせは、TEL：01457-2-2222 担当：三浦まで

キャラクター募集チラシ

エントリー1







【キャッチフレーズ】

スズラン、ラビット、トヨヌカ！

スローライフ体験、とよぬか！

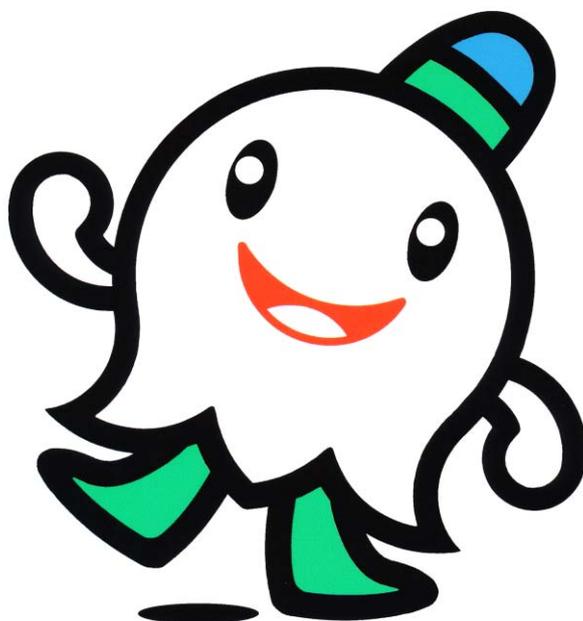
ひだか、とよぬか。いなか、さわやか。

ラビット、ランラン。とよぬかの里。

ひだか、とよぬか！行くシカない！

百聞は一見にシカず！

エントリー2



(製作意図)

町花「すずらん」の擬人化をモチーフに、「平取町をよろしく！」とPRする姿・明るい未来に向かって躍動する姿を表し、全体のフォルムと色彩で「豊かな自然のまちー平取」をイメージしデザイン。

エントリー3



※コメント無し

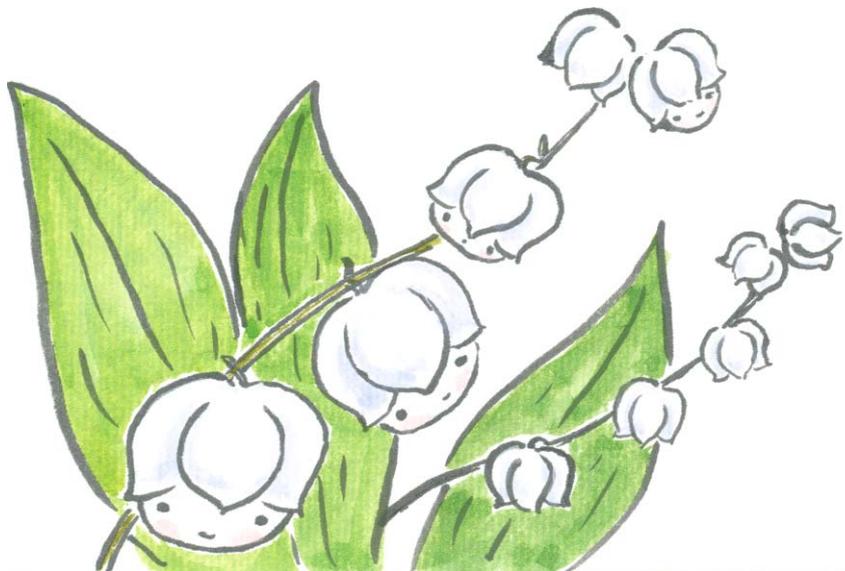
エントリー4



エントリー5



エントリー6



【キャッチフレーズ】
透き通った風
野菜も空気もおいし
いよ

エントリー7



(製作意図)

豊糠の「と」の文字をモチーフに、幌尻岳やス鈴蘭の花に囲まれ自然豊かな豊糠地域の様子デザイン。笑顔で未来を指さし、元気で楽しいキャラクターにしました。

自然に 感涙。豊糖!
自然の声を聴きにいこう!

自然に恵まれた森にしか住むことのできない「山の妖精」
豊糖住民や豊糖を訪れる人々をいつも見守っている

性格は明るく人懐こい
何事にも熱心に取組むが、ときどき失敗をして母親に注意
されることも・・・

森の住人である動物たちとも仲良しで、毎日一緒に遊んで
いる

推定年齢：人間でいう6～8歳

趣 味：編物、山菜採集(山菜図鑑作成中)

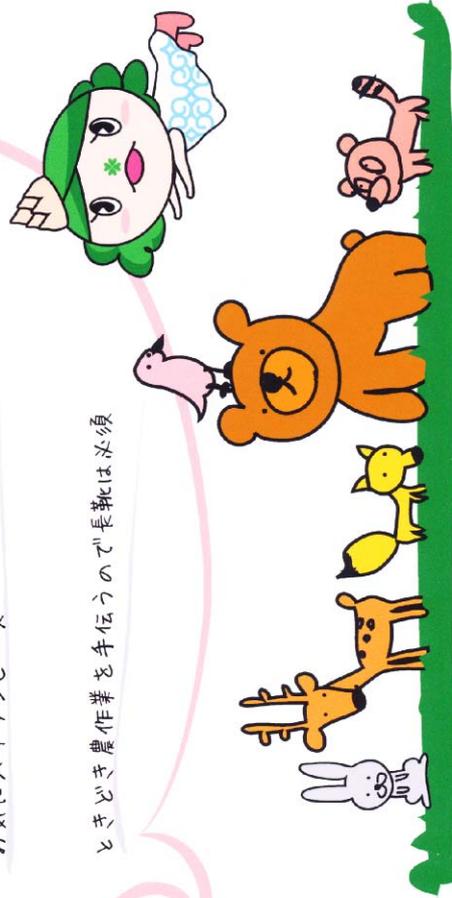


頭には大好物のホワイトアスパラをイメージした帽子
(お母さんの手編み)

豊糖を訪れた人に幸運をもたらすと噂されている
四葉のクローバーのようなお鼻

伝統あるアイヌ模様を今風にアレンジした(つもりの)
お気に入りのワンパース

ときどき農作業を手伝うので長靴は必須



エントリー9



野生動物の宝庫にのの一つである「熊」をモチーフに擬人化し「スズラン」と「とよぬか」のロゴの入ったのぼり旗をを持ち大きく手を広げ「豊糠」をアピールしている姿にイメージして小さなお子さんからご年配の皆さんまで親しんで頂ける様に表わしました。



野生動物の宝庫ということで「熊」をモチーフに擬人化し帽子には「とよぬか」のロゴを入れ「スズラン」を飾り、両手に「ホワイトアスパラ」と「スイートコーン」を持ち「豊糠」をアピールしている姿にイメージして小さなお子さんからご年配の皆さんまで親しんで頂ける様に表わしました。

エントリー10



名前は「森の妖精・くまのヨヌーカ」です。

ホワイトアスパラガスに乗って山の上から町の人々を守っています。

カラダは、山の色。耳は、とうもろこし。ほっぺは、平取のトマト桃太郎。

魔法のステッキは、ホワイトアスパラガスで構成しています。

エントリー 1 1



(製作意図)

豊糠の山々と自然に溢れたようすを帽子で表現し、愛らしくマスコットに表現しました。すずらんの首飾りをつけキャラクター全体で豊糠を表現しました。

お子様からお年寄りまで幅広く親しみを持って頂けるよう心掛け製作いたしました。シンプルなデザインですので縮小、単色に耐えられ、グッズなど幅広くお使い頂けます。

エントリー 1 2



【キャッチフレーズ】

キャラクター名：とよパラさん 性別不明 58歳

時がとまる ありのままの 大地 豊糠

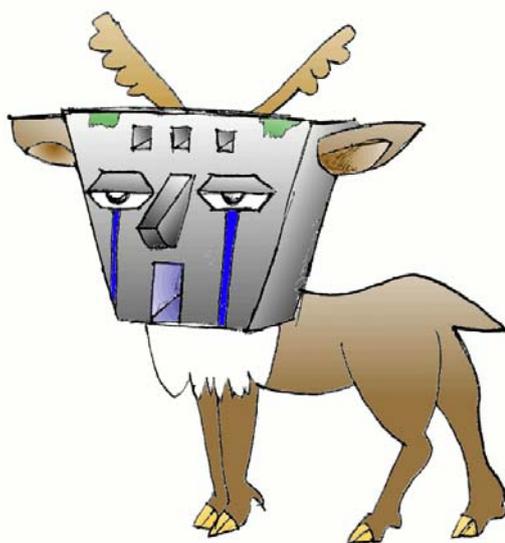
大自然の中の 人・ぬくもり 豊糠

大地の恵みと 共に歩む 豊糠

生き物は みんな友達 豊糠

自給自足できちゃう 豊糠

エントリー 1 3



風の谷のダムシカ

エントリー 14



【キャラクターキャッチフレーズ】
すずらんの里、豊糠のかわいい妖精

【キャラクター説明】
豊糠が日本一の野生の鈴蘭群生地から一番近く、また、鈴蘭が平取町の町花でもある事から鈴蘭をモチーフに、明るく親しみやすい鈴蘭の妖精をマスコットキャラクターとしてデザインさせて頂きました。

エントリー 15



(制作意図)

きたきつねがかわいいかも？→日本中の神社できつねが！ということでやはり私の時代の北海道は熊…ということで勝手にヒグマに決定しました。

リンドウをワンポイントにトマトの帽子と白アスパラの収穫で頑張っています。

誰が見ても一目でわかってもらえるように出きるだけシンプルに描きました。

エントリー 16



(キャッチフレーズ)

自然のやさしさとおいしさをあなたへ

エントリー 17



キャラクター名称：すずらびっと

キャッチフレーズ：いらっしやい自然の宝庫平取町へ

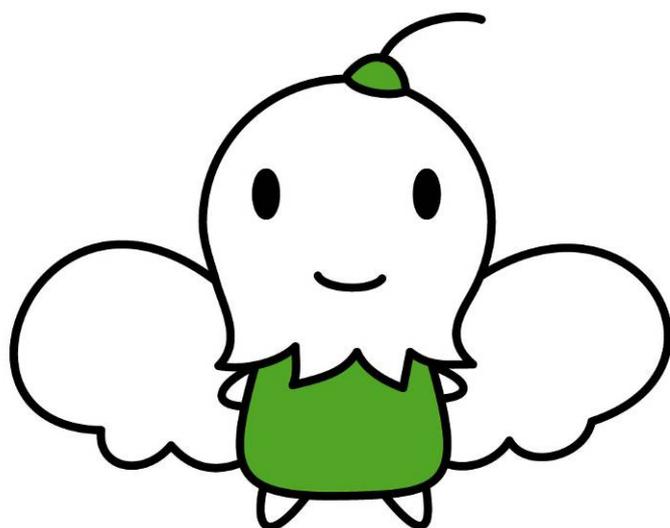
説明：平取町名産のすずらんと、野生動物のうさぎをモチーフとしてデザインしてみました。

特徴は、すずらんの帽子をかぶり、すずらんの首輪をつけていること。また、うさぎの耳がすずらんの葉になっていることです。頭のとっぺんからちょこんと出ているのは、すずらんの茎

です。ピンク色の体で、かわいらしく親しみが持てる（うすいピンク）ようにしました。 名称説明：すずらんとうさぎ（らびっと）を合わせて名付けました。

キャッチフレーズ説明：自然がたくさんあり、多くの人達には是非訪れて欲しいとの思いを込めました。

エントリー 18



スズランをイメージしてデザインしてみました。

エントリー 19



平取の頭文字“B”を横にしたダムをモチーフにしました。

「ダムは自然の地形を活かした地球そのものである」ことを表現しました。

エントリー 20

※コメント等無し



エントリー 21

※コメント等無し



エントリー 2 2



【キャラクターについて】

豊糠のその手付かずの自然を象徴するような、野生の鈴蘭の花、降るような星空、そして野生動物の熊をモチーフに、地産物の魅力と、自然に溢れた閑静な村の心豊かさをファンタスティックに伝えられればと、星降る里で星を集める鈴蘭の花を頭にのせたクマのキャラクター“（仮称）ホシグマくん”を制作しました。

【キャッチフレーズ案】

ケータイ圏外、空と大地といのちと星と話す里。

エントリー 2 3



【制作意図】

平取町の「び」の文字をモチーフにダムの水源地と地域から生み出される農産物のイメージを重ねデザイン。

エントリー24



【コメント】

みんなに優しい気持ちを届けるすずらの妖精 “うさぎのビーラちゃん”

エントリー 25



(製作趣旨)

豊糠の名物「スズラン」を基調とした、明るく、元気で、可愛いキャラクターです。緑は大地、黄は光、白は清流と雪で豊かな自然に恵まれた豊糠をイメージしました。

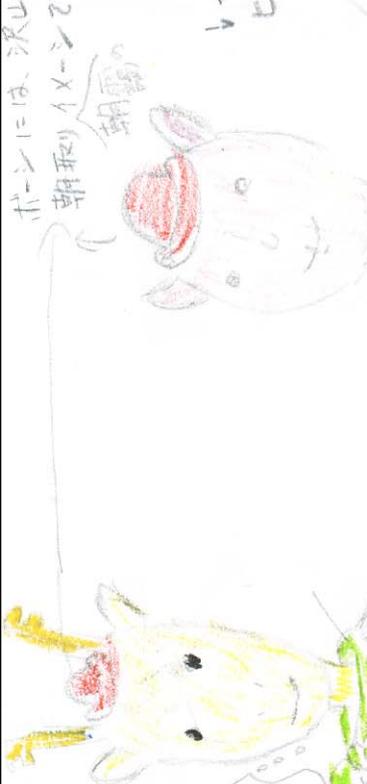


(製作趣旨)

豊糠の名物「アカゲラ」と「スズラン」を基調とした、明るく、可愛いキャラクターです。豊糠の森に住み、自然を守り、育み、愛する「とよぬかの森の妖精」のイメージです。

エントリー26

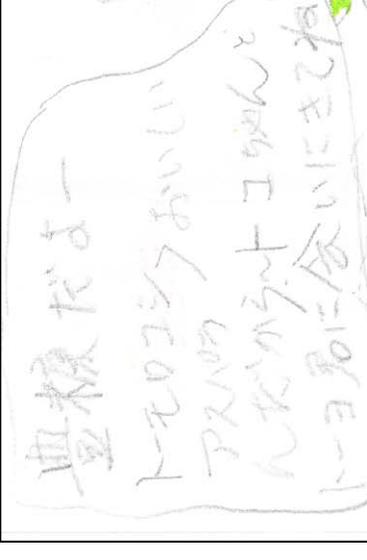
トモロコシだよー
アスラの
んたかざつエちゃん
トヨ君に会いにきてね



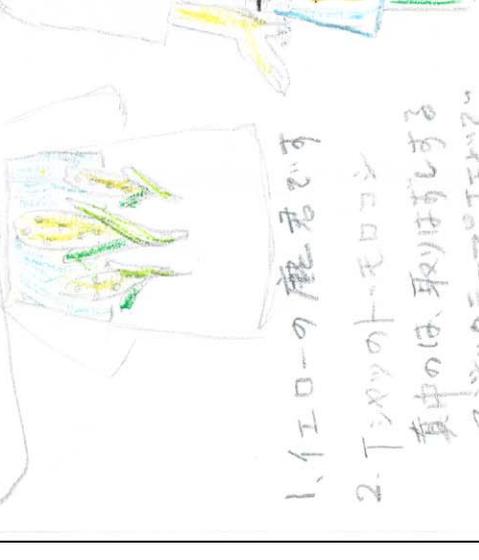
トヨ君



朝霧



トモロコシ



トモロコシは、沢山のアスパラを植えて
朝霧のイメーションでレス
→モカける

レスの所に朝霧に点を
ビーズで朝霧に点を
みせかける。

1. エローの鹿君です
2. Tシャツのトモロコシ
真中のほ、取りはすしする
マジックテープで
争が、さがる時には、
ホンと背中にくっつける
あとの2本...絵にする
Tシャツの背中、言位上
マジックテープ使用にす

1. ヒョウの熊さん
2. エアロのポケットの中に
グリーンとホワイトアスパラの
又例は(フエルトでつくた)
を沢山入れる
3. Tシャツの後ろ...
3本のトモロコシ
真中のトモコシは
フエルトで作るマジック
テープを使用、Tシャツの
後に(刺)は刺し出せる
ようにする
あとの2本...Tシャツに糸をまく

エアロンは
空と大地
良く肥え黒い土

エントリー27



名前：GO GOくん
性格：元気、活発
□癖：○○ベアー
趣味：山登り、魚獲り



<コンセプト>

沢山の人に愛されるように、また、これから豊糠と一緒に盛り上げていく「仲間」という意味で「力強さ」よりも「親近感」を大切にしました。

<モチーフ>

北海道でもっともポピュラーなクマを自然色「緑色のクマ」に仕上げました。

<ネーミング>

緑のクマの名前である「GO GO」には2つの意味があり1つは

豊糠に行こう！という意味の「GO」

もう1つは豊富な自然を解放しますという意味で

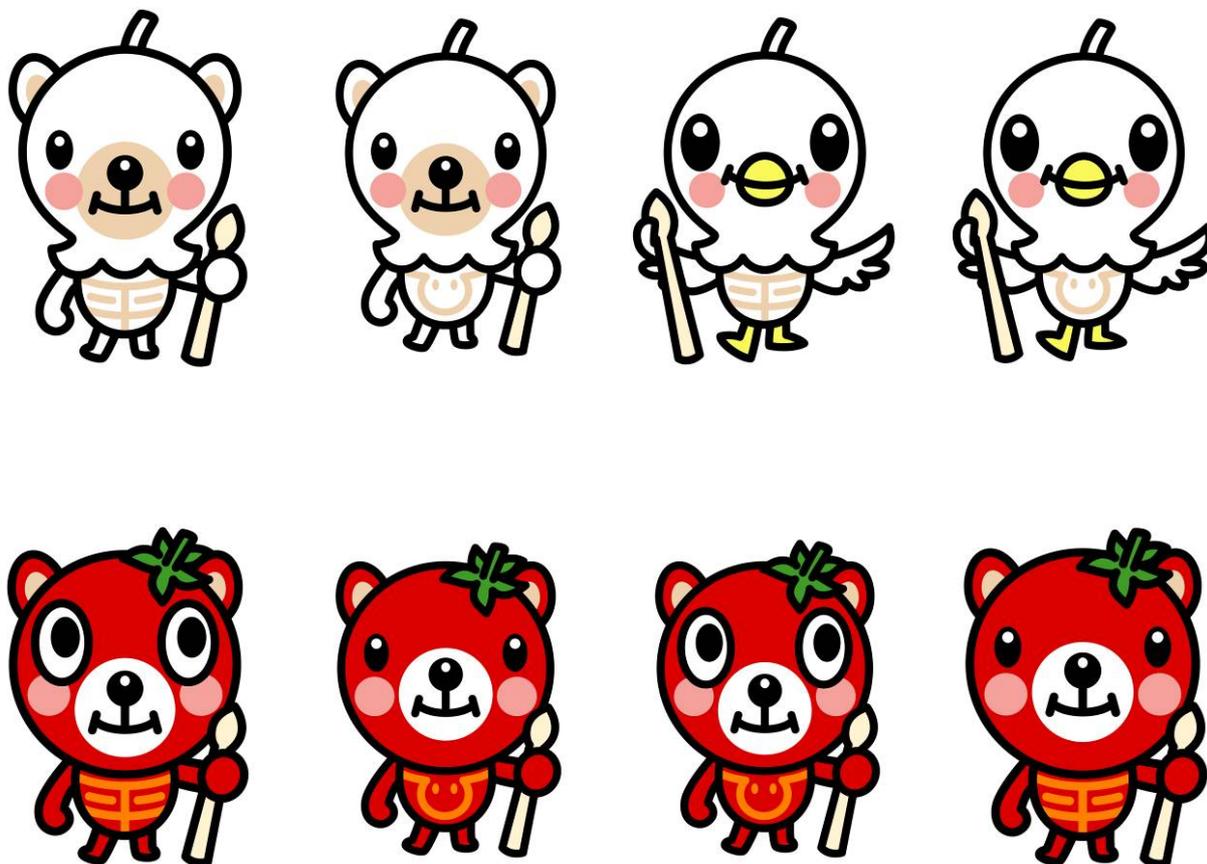
「Green Open」の頭文字「GO」

この2つを合わせて、アクティブでポジティブな印象を与える「GO GO」にしました。

みんなとよぬかを
元気にするベアー



エントリー 28



・平取町の特産品『ニシバの恋人：びらとりトマト』『ホワイトアスパラガス』
・自然豊かな平取に棲息する野生動物『クマ』
以上の要素をモチーフに制作しました。

- ①・②頭部は『鈴蘭』全身は『クマ』をイメージします。
北海道の雪をイメージし、全身を真っ白に彩色。
- ③・④頭部をスズランので描写した、鳥類がモチーフのキャラクターです。
全体像は、北海道の雪をイメージした真っ白い彩色で仕上げました。
- ⑤・⑥・⑦・⑧全身は『トマト+クマ』を融合した真っ赤なクマをイメージ。
トマトのヘタを、耳飾り風に描写しアクセントを加えました。
手に持つステッキは、ホワイトアスパラガスをイメージ。
身体の幾何学模様は、アイヌ文化をイメージし、平取町の『平』をあらわします。
キャッチフレーズは、『豊かな自然。豊かな平取』

エントリー 29



【コメント】

トヨタカンドリーム・ダムシカ

全29名の応募の傾向として、高校生からデザイナーまで、また、北海道内はもとより南は福岡県からも応募が寄せられた。

◎選考結果

最優秀採用決定	準、優秀入賞	
エントリー11番 審査得点 37点	エントリー7番 審査得点36点	エントリー15番 審査得点36点
		

優秀者の採用理由としては、誰からも愛されそうであり、地域のシンボルとも言える山・川・すずらんなどを包括されているところが、高評価となった。

次点の入賞作は、とよぬかの「と」の字をモチーフとしており、トマトを組み込んでいるなど独創的で目を引くものが高得点となった。しかし、この3点については、全てデザイナー・イラストレーターの作であったため、採用基準としては少々ハードルが高かった選考になったとも言える。

今後は、この最優秀と選考されたキャラクターには名前がないため、愛称を公募する方法が検討される。また、「とよぬかブランド特産品」などが商品化した際に組み込んで利用していくことも今後の検討とすることで決定した。

●「ホームページの開設、活用」

現代社会において情報発信の手段として、インターネットワークは非常に有効かつ不可欠となっている。2013年にはインターネット人口が22億人にも達するとの予測値も報告されており、特に小規模事業者等には少規模投資、維持費で大規模と対等の情報発信をすることができるため、様々な情報が爆発的に増加している。

これまで平取ダム水源地域振興協議会には、全国に向けて発信するホームページはまだなく、早急に設立すべきとの議論もされていた。



12月11日の協議会にて、ホームページ作成の検討

開設にあたり、レイアウトはどうするのか、画像映像等の題材はどうするのか、などが検討された。打合せを進め、掲載内容は現状の当協議会で用意できる平成21年度までの情報を掲載することとなった。



CONTENTS

OPEN | CLOSE

-  最初のページ
-  とよぬかの里
-  協議会について
 -  協議会の概要
 -  構成メンバー
 -  協議会規約
 -  経過
 -  平成21年度事業計画
-  協議会の事業

お知らせ

とよぬかキャラクター決定
キャラクター公募(締め切り...)

リンク

OPEN | CLOSE

-  平取町移住・交流関連サイト
-  平取町関連公式サイト



- 名称 平取ダム水源地域振興協議会
- 設立 平成20年10月1日
- 所在地 北海道沙流郡平取町字豊糠23番地4
- 会長 相田 芳訓
- 事務局 北海道沙流郡平取町本町28番地
平取町町づくり振興課企画係
01457-2-2222
- 目的 沙流川を源流とした平取ダム水源地域の振興と活性化および交流の推進を図るため、各種施策や事業を計画するとともに地域と町全体の活性化に寄与する。
- 事業 (H20) 協議会の運営
水源地域アドバイザーの招聘
旧豊糠小中学校利用策の検討
旧豊糠小中学校教員住宅利用策の検討
- (H21) 協議会の運営
滞在型農園「とよぬかの里」の実施
国土交通省委託業務「平成21年度水源地域活性化調査業務」の実施

CONTENTS

- OPEN | CLOSE
- 最初のページ
 - とよぬかの里
 - 協議会について
 - 協議会の概要
 - 構成メンバー
 - 協議会規約
 - 経過
 - 平成21年度事業計画
 - 協議会の事業

お知らせ

とよぬかキャラクター決定
キャラクター公募(締め切り...)

リンク

- OPEN | CLOSE
- 平取町移住・交流関連サイト
 - 平取町関連公式サイト

相田芳訓	豊糠	豊糠自治会長	
高瀬哲朗	芽生	芽生自治会長	
丹野信一	貫気別	貫気別自治会長	
福澤一光	振内町	自治振興会長(振内自治会長)	
山田喜代太	本町	平取町商工会長・観光協会副会長	
糸屋新一郎	岩知志	前、平取町農協トマト・きゅうり部会長	
白石清治	旭	旭自治会長	
元起昭夫	振内町	平取町山岳会長	
渡辺隆之	振内町	NPO法人平取町ふるさと親子留学推進協議会理事長	
熊谷厚子	豊糠	バリアフリーのくまさん荘経営	
野間克実	振内町	NPO法人「ほかり」事務局長	
石谷禎紹	豊糠	豊糠自治会	
島中美基朗	豊糠	豊糠自治会	
若名健一郎	振内町	NPO法人「ほかり」理事	オブザーバー
桜井幹也	本町	町議会副議長	オブザーバー
山田一明	長知内	町議会議員	オブザーバー

CONTENTS

- OPEN | CLOSE
- 最初のページ
 - とよめかの里
 - ☐ 協議会について
 - 協議会の概要
 - 構成メンバー
 - 協議会規約
 - 経過
 - 平成21年度事業計画
 - ☐ 協議会の事業

お知らせ

とよめかキャラクター決定
キャラクター公募(締め切り...)

リンク

- OPEN | CLOSE
- ☐ 平取町移住・交流関連サイト
 - ☐ 平取町関連公式サイト

平成21年度事業計画

- 1、平取ダム水源地域振興策に関する検討会議の開催
- 2、滞在型農園「とよめかの里」の事業実施と運営
- 3、豊糠小中学校の利用策策定に関する調査と検討
- 4、先進地事例の視察研修
- 5、事業実施主体のNPO法人化の検討
- 6、観光と移住の一体化した施策検討
- 7、インターネットのホームページ・ブログコミュニティなどを利用した情報発信の取り組みと運営

CONTENTS

- OPEN | CLOSE
- 最初のページ
 - とよめかの里
 - ☐ 協議会について
 - 協議会の概要
 - 構成メンバー
 - 協議会規約
 - 経過
 - 平成21年度事業計画
 - ☐ 協議会の事業

お知らせ

とよめかキャラクター決定
キャラクター公募(締め切り...)

リンク

- OPEN | CLOSE
- ☐ 平取町移住・交流関連サイト
 - ☐ 平取町関連公式サイト

○今後の活用

立ち上げて終わりではなく、様々な情報発信をしなければ意味がないとの意見が出る。これまで写真素材が不足していたが、今後は事業説明や募集・写真素材の掲載を進めていくことで決定した。

6. 「水源地域活性化活動の実施」（先進地等調査）

水源地域協議会での検討課題などを、先に実践している先進地へ協議会員を派遣し、視察させることで、新たな情報や知識の蓄積を促進させることを目的として実施した。

平成22年3月3日（水）～3月5日（金） 参加者 7名

視察先

3月3日 梁川ダム建設事務所

3月4日 NPO法人 もりおか中津川の会

3月5日 体験型宿泊施設（校舎の宿）さんさん館

①梁川ダム建設事務所

梁川ダムは、北上川水系梁川の総合開発の一環として建設される多目的ダムである。国直轄事業の平取ダムとは異なり、補助ダムではあるが国土交通省の指針に基づき「本体工事に着手していない」検証対象となった事業である。

治水対策の基本的な考えとして、洪水から県民の生命財産を守るとともに、沿川の土地利用や地域特性を勘案した治水対策として有効な対策であること、また、これまでの経緯などについての説明を受けた。



事務所側の事業説明

県としては、今後事業を継続するかどうかは、「新しい建設基準が示された段階で適切に対応していく」とのことであった。その後は建設現場へ案内を受けて移動。ダム建設予定地や付け替え道路の工事現場を見学した。



総延長 7km、設計速度 80km/h の高規格道路で非常に大規模な付替道路であり、参加者は事業全体として平取ダムとは規模や状況が少々異なると感じた。

②NPO 法人もりおか中津川の会

視察 2 日目は、当協議会と同じく国土交通省の調査業務の委託を受けている NPO 法人もりおか中津川の会を訪問。



廃校舎を作業場として実施

この団体は、川に自生するツルヨシを刈り取って採取し、和紙を製作する調査業務を実施しており、製作現場として梁川上流にある廃校舎を県から無償で借り（光熱水等は自己負担）、そこで調査業務を実施していた。



大量のツルヨシを体育館に保管

また、同事業として和紙を墨染めして脱臭効果を持たせたり、ツルヨシを使ったマメコバチの巣などを製作や墨染めなど、地域との取り組みの説明を受ける。

中津川の会の活動拠点としている盛岡市内へ移動し、中津川流域で取り組んできた「橋洗い」や「かじかの育成」、「流域清掃」など、市民を巻き込んだ様々な活動をしていることがわかった。

「中津川の会」の人達は、地域愛が強く、今後も様々な取り組みをしていくとのことで、視察参加者に新しい認識を生み出すものとなった。

③グリーンツーリズム体験《校舎の宿》さんさん館

視察3日目は、岩手県と宮城県のほぼ県境に位置する廃校舎を利用した体験型宿泊施設「さんさん館」を訪問。この施設は、全国廃校活用50選に選定され、非常に注目度が高く視察も多いという先進事例である。



宿泊用に改修された教室など校舎内を視察

この「さんさん館」は、127年の歴史がある林際小学校が廃校になったものであり、最盛期には約220名の生徒がいたものである。

学校は過疎化により生徒が減少し廃校となって取り壊される予定で、町役場で解体予算も議会で決定されていた。しかし、このままでは地域の活力がなくなることを懸念した卒業生などが奔走し、12名による運営事業組合を設立し、町より校舎を譲り受けたとのことである。

町としては運営など経常的な面倒を見ることもできない為、議決された解体予算のみを補助金として交付し、今後は運営事業組合の責任という形になったものである。

また、「さんさん館」は初年度に東京のテレビで取り上げられ、約9千人が訪れ対応が難しくなり、地域に協力を要請し様々な体験型メニューを実施しており、平均72歳67名のインストラクターが一体となって運営していた。

廃校舎が地域にとって外部との交流調整機関となって生まれ変わり、就労機会の提供にもなり、地元農家から食材を調達することで活力源となっていた。こういった事業を実施する場合には無償ボランティアになりがちであるが、長く続ける為には無償としないことが不可欠と参加者は認識した。



説明を受けながら、質疑・意見交換

また、施設の利用法として、B&B（ベット&ブレイクファスト）を基本として、お客さん自身の様々な利用法を提案して利用してもらっていること。トイレや浴室は都会並みじゃないと人は来ないなど、非常に参考になる説明を聞くことができた。

視察研修を通じて、状況や規模、環境等抱えている問題は共通であり、地域の活性化を望む想いは同様と認識できる視察となった。協議会として今後の方向性、特に体験型メニューや民泊活用、廃校活用策などを検討するうえで参考になった。

7. 事業のまとめと評価

平取ダム水源地域振興協議会は、過疎化に悩む小さな町の活性化を目指して、行政・地域住民・関係機関が一体となり課題に取り組む機関として設立された。

【水源地域の活性化への効果】

今回、本水源地域活性化調査業務を実施した事で、若者フォーラム・滞在型農園「とよぬかの里」・とよぬかキャラクターの決定など、取材を受けメディアに取り上げられることが数回あった。これまで豊糠地区が新聞に掲載されることはほとんどなかったのが、短期間に多く露出することとなった為、「最近話題になっている地域」として認識している人も確認できた。

若者フォーラムを実施したことで、始めて平取町を知るきっかけになった若者が多数、地域の取り組みに関心を示したものの多数と、非常に多くの方が「とよぬか」を知るきっかけとなった。この取り組みは、大学生300人の「よさこいイベント」に繋がったものと認識でき、「例年とは変わったことをしている平取町」と思われる要因にもなる。

インタープリター養成の前段として、まず地元を知る必要があるとアドバイスを受けたのは大きな収穫と言える。これにより、農業体験民泊の検討と「地元学」開催に向けて動き出す事ができ、関係者も実施に向けて意欲的である。

特産品は12品が完成したが、すべてを特産とはならない為、アドバイザーによる絞り込みが必要となる。しかし、地元から買い上げて特産とする事は関係者も歓迎しており、大きな期待を寄せている。また、採用したキャラクターは愛らしいと好評であるが、今後はキャラクターを活かした活動も必要となる。

ホームページは情報発信として動き始めたが、情報量と魅力的なコンテンツが不足していると関係者の認識である。今後は、詳細な豊糠の紹介やイベント告知など様々な利用法を検討するよう求められている。

【関係者・参加者の評価と感想】

若者から注目された、メディア掲載したなど、関係者に限らず地域住民にとっても調査業務内で実施した活動は、非常に意味があると評価している。廃校舎・旧教員住宅を利用した更なる活動の実施に向けて、大きな期待も寄せられている。

【活動の実行体制上の課題】

活動の期間は8月から翌3月と、約半年間の実施であったため、連絡調整が円滑に進まずに実施しようとしてしまった部分もあり、無理のない長期的視野を見据えた活動計画が必要である。

【今後の方策】

本調査業務で手がけた各事業は地域振興に有効であることが確認できた。今後は、本調査業務の結果を活かして経常的に実践できる体制づくりが必要とされるが、今後の実践見本となるべく協議会・町・地区住民や関係者が意思疎通を図りながら協議して実施するものとして協議会で一致した。



平成22年3月水源地域協議会の様子